

令和2年度「市長と語り合う会」について（高津地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和3年 2月8日（月）	高津公民館	19:00～20:00	22	6	28

手話通訳者2名（はびねす福祉会）対応あり

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

- 開 会（秘書課長）
 - ・ 会の趣旨説明
 - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 令和2年度の当面の課題・状況

一昨日、高津地区の地域自治組織設立総会に伺った。大きな地域であり、立ち上げまでのご苦労に敬意を表する。円滑な運営のため引き続き支援させていただく。

・萩・石見空港

昨年はこの2便を維持するための発着枠政策コンテスト審査の年であったが、無事令和5年3月までの継続運航が決定した。しかしコロナ禍の中で利用は大きく落ち込み、現在東京線の2往復が1往復に減便される日、全く飛ばない日もあるなど厳しい状況にある。コロナ収束後直ちにこの状況から回復できるよう、しっかり準備をしていく。

・山陰道

「益田～萩」のうち須子から小浜までの「益田西道路」新規事業化が、昨年度～今年度の山場であったが、無事決定した。臨空ファクトリーパーク近くにインターチェンジがつくられる予定で、企業誘致にも弾みがつくと考えている。すでに次の「小浜～田万川」の事業化に向け、島根・山口両県や萩市と連携し要望を行なうなどしている。

・日本遺産とガーデンツーリズム

中世の様々な遺跡、文書を束ね、日本全体でも有数の際立ったストーリーとして発信していくのが日本遺産である。市内の中世関連遺跡が「中世日本の傑作益田を味わう～地方の時代に輝き再び」というストーリーのもと認定された。また国交省が認定するガーデンツーリズムに、中国地方にある雪舟関連の庭園等を巡る計画を総社市等とともにまとめ、「雪舟回廊」として登録された。いずれも市内の観光名所を発信していくためのものだが、コロナ禍で誘客も難しい状況である。しかし収束後にこれらの成果を生かせるようにしたいと思っている。2023年には柿本人麿の1300年忌という節目を迎えるので、しっかりと顕彰し広めていきたい。

・東京オリンピック・パラリンピック

コロナ禍で残念ながら開催延期となり、事前キャンプも1年延期された。アイルランド自転車チームのホストタウンとしてキャンプを支え、選手と市民の交流、またその後も幅広い交流が続けられるよう考えていた。新型コロナの現状からは今年の開催も厳しく、また開催されても市民との交流は限定的にならざるを得ないと考えるが、いずれにしてもそれ以降のアイルランドとの友好関係構築、交流拡大にはしっかり取り組んでいきたい。また「自転車によるまちづくり」も同時に進めており、走りやすい環境などを発信して市民の皆様にも自転車に親しんでもらうほか全国の愛好家にも訪れてもらえるよう取り組んでいく。

・新型コロナウイルス

施政方針の策定期間に感染拡大が始まっており、その後の拡大・長期化は未知数だったため少し触れただけであったが、結果的にコロナに始まりコロナに終わる形となった。益田市でも昨年8月に1名のほか、年明け後に集団感染が発生した。また観光・交通・飲食業を中心に影響を及ぼしている。この影響を最小限にするよう注意喚起を繰り返し行っている。2～3月にはワクチン接種が始まる予定で、新年度も一人でも多くの方にこの接種を受けていただけるようにすることが最大の課題となると認識している。副反応や効能、持続期間などはっきりしていないことも多いが、今できる最大の対策が接種の促進であると考えている。皆様のご理解ご協力をお願いしたい。

2. 連携の具体化と結実

事業・施策の進め方について次のとおり掲げている。

・SDGsに関する連携

SDGs（持続可能な開発目標）は2030年までに世界共通で達成することを目指した17の国際的目標で、2015年に国連で採択された。市では新技術を使って住みやすいまちづくりを進めるため実証実験の場を提供したり、環境に優しい取り組みも進めている。いろいろな団体とSDGsの理念を介して連携を行っていこうという考えである。

・島根県との連携

空港も山陰道も、県との連携により成功に繋がっている。今後も県との連携を大切にしながら各施策を進めていく。

・民との連携

特に地域自治組織など地域住民の皆様や、SDGs等に繋がる民間企業などとの連携を大事にしていきたいと考えている。

これまでに述べた方針が令和3年度においても基本的に継続されるが、やはり新型コロナウイルスへの対応、ワクチン接種をしっかりと行うことが最大の課題となる。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 森林環境譲与税の活用について
- ② 空港の活用について
- ③ 防犯対策について
- ④ SDGsについて
- ⑤ 人権について
- ⑥ 動物愛護について
- ⑦ 防災対策について
- ⑧ 自助・共助・公助について

○ 閉 会 （秘書課長）

令和2年度「市長と語り合う会」

〔会場 高津公民館 開催日時：令和3年2月8日（月）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 森林環境譲与税の活用について 安田でも質問した森林環境譲与税について、益田市も3千万円近く付与されると聞いた。バイオマス発電で、江津に益田産チップを供給しているとの話だったが、輸送でCO2を排出するとカーボンニュートラルにならない。小規模で成功しているところもあるので、山間部に設置するのが有効なのではないか。</p>	<p>① 市内に設置できればよいが、県や国の立場からすれば、これ以上同様の施設に補助を期待できない。民間設置に対する市の支援は考えられる。発電所を作るとなると、譲与税を何年何十年分費やすこととなる。搬出道の整備など、使い道としては様々なものを検討している。</p>
<p>② 空港の活用について (2往復便維持を掲げているが) 1便ではダメなのか。また、便が増えても観光客は萩など他市町に流れて、益田市にお金を落とさないから値打ちがない。</p>	<p>② 有効活用のためにどれだけあるのが良いかということで、1往復の時代もあったが、前泊・後泊を要するなど利用しにくかった。2往復ある現在は、東京からの利用なら日帰りも現実的であり、企業などの利用で様々なチャンスが広がっている。県や近隣市町、ANAも2往復維持について同じ考えである。また益田市は、萩や津和野に比べて観光地としての知名度がまだ低い。日本遺産などを活かした取組で魅力づくり、発信の強化を行っていきたい。</p>
<p>③ 防犯対策について 防犯カメラが国道にはあるが、県道市道にはない。空き家が増えて、不審者の侵入が想定される。住民の不安解消のため、設置に係る補助等を検討してほしい。</p>	<p>③ 何かあったときの原因究明や、設置が周知されることによる犯罪抑止効果など、設置のメリットはあると考え、少しずつ進めている。最近円通和地区にも設置されたと承知している。なかなか要望即設置とはならないが、必要性の高い所から進めていきたい。</p>
<p>④ SDGsについて 具体的にどういうことをするのか、詳しい説明をしてほしい。</p>	<p>④ 大きく2つある。1つは新しい技術を使って暮らしやすいまちづくりをする、そのために市外の機関や企業に入ってもらい、新しい技術の実験を支援するという。IoTで水路の水位測定とデータの蓄積を行い、大雨の際の水害予知を行ったり、テラヘルツ技術という、植物含有ミネラルの特性を利用しウイルスを攻撃したり、作物の強化を行うことで、これも実証実験を支援している。2つ目は環境改善の取り組みで、COOL CHOICE宣言を行い、環境に優しい商品や生活を推奨している。小学校と家庭で協力して、電力消費を抑えたり、水を効率的に利用する方法など、目標を決めて取組み、その成果を学習に生かしてもらい、アンバサダー認定を行うなど。</p>
<p>⑤ 人権について 自分がある仕事を依頼され、それを請ける返事をしたが、市役所の部長がある議員に電話し、その議員がさらに仕事を依頼した人に電話して、自分を雇うなら今後協力しないと云ったという。市だけでなく国全体的に、人権的な問題がはびこっていると感じる。</p>	<p>⑤ 最初にJOC森会長の発言を引かれたが、本当に日本人として恥ずかしいと感じた。また日本に、いかに人材がないかも痛感した。広い視野で公平な人事を行うことが当然と思う。コロナ禍で、感染者や接触者への差別や、不確実な情報の拡散など、残念なことが起こっている。信頼と思いやりをもって暮ら</p>

<p>⑥ 動物愛護について 多頭飼育崩壊などの問題が起こっているが、益田には愛護団体がなく、理解も広がらず、行政と民間との協働もできていない。協力して理解を広げてほしい。</p> <p>⑦ 防災対策について 高齢化が進み、昨夏高津川が危険水域に入ったときに、夜中に避難準備となったが、車のない世帯など避難が捗らない状況がある。現状認識・問題意識を尋ねたい。</p> <p>⑧ 自助・共助・公助について 大規模災害などに際して、具体的にどういう役割分担で行うのか決めておく必要があると思うが、どう考えるか。</p>	<p>せる益田市にしてくために、ご協力をお願いしたい。</p> <p>⑥ 動物愛護の運動等について、まだ知られていないことも多くある。資料をいただいたので勉強し、しっかり考えさせていただく。</p> <p>⑦ 避難行動を支援していただき感謝申し上げます。雨災害について、気象予報の発達により大雨は2～3日前から予測できる。上流の降雨・水位状況により市民への情報提供を決めていく。「避難準備」の段階では、高齢者の方には避難開始を促す情報を出している。他所の例では、避難の動きができなかった方が被害に会う例がほとんどで、いかに行政の発表を我がこととして受け止めていただくかが重要であり、避難勧告・避難指示はかなり強い調子で発表しないと考えている。また普段から訓練をしっかり行うことも重要である。</p> <p>⑧ 前項と関連するが、毎年地区を変えて大規模な避難訓練を行っている。訓練を通じて実際の避難の仕方、避難所でのケアの仕方などを実践し、個人が何に気を付けるか、自治会や自主防災組織でどう動くか、市や消防とどう連携するかをシミュレーションしている。これを積み重ねて役割分担などを明確にしていきたい。</p>
--	---